

長野県ことばの会の活動記録

著者	ことばの会事務局
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 7: 1-2(1995)
発行年月日	1995-07-31
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022396

第6号のあとでこの最新号をお届けするまでにずいぶんと時間がたってしまいました。今後は年1回のペースで着実に刊行していきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いします。

第6号以降の長野県ことばの会の活動は次の通りです。

第30回研究発表会

平成5年2月14日（日）午後1時半より

松本市勤労者福祉会館第4会議室

1. 日本人と日系ブラジル人の言語行動の比較

保科さとみ

2. 日韓両語における空間指示語の意味の対照研究

朴載勳

3. 八坂小統合によるガ行鼻音の消長

－生坂小中学校と比較して－

清水真弓

なお、同時に行われた総会で、青木千代吉、京極興一、馬瀬良雄の3氏が理事を退任し、新理事として上條厚、沢木幹栄、丹羽一彌（3氏とも信州大学教官）の3氏が選出された。また、会費が維持会員 年5000円、一般会員 同2000円、学生会員 同1000円のように改定された。

また、4月14日に開かれた理事会で、代表理事に丹羽が、会計監査に金子泰子（上田女子短大）清水真弓（須坂高校）が選出され、6月27日に行われた総会で承認された。

第31回研究発表会

平成5年6月27日

松本市勤労者福祉会館第4会議室

1. 伊那方言の標準語化と性差

中村純子

2. 「生成」という観点からの話法の再検討の試み

徳井厚子

3. 若年層の使用する方言

丹羽一彌

第 32 回研究発表会

平成 6 年 2 月 13 日 (日) 午後 1 時半より

松本市中央公民館会議室

1. 日系ブラジル人の場面による言語と言語行動の切りかえ

高木賀世

2. 若者の使う方言 — 松本平の場合 —

竹野入恭子

3. 日本と台湾における言語行動

— 言語意識と断りの表現を中心に —

呉 枝美

4. 当て字・誤字・規範的表記

田島 優

第 33 回研究発表会

平成 7 年 2 月 26 日 (日) 午後 1 時半より

あがたの森文化会館 2 - 4 室

1. 木曾谷のアクセント

加藤秀貴

2. 統合化漢字について

林立萍

3. 源氏物語における上接語・下接語から見た助動詞キ・ケリの差異

(1) 品詞

加藤浩司

4. 接続詞「しかし」の意味について

沖裕子